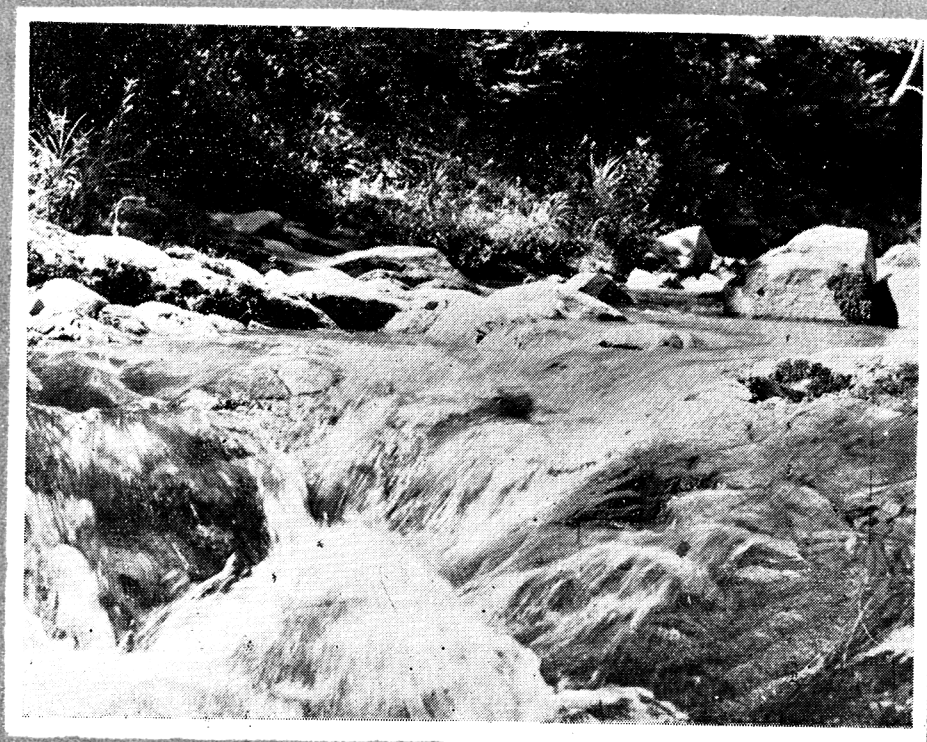


# 茨城調査時報



## 目次

昭和31年夏期農業基本調査迫る .....	1
最近における自作農地の売買価格 .....	2
毎月勤労統計調査結果速報 .....	5
統計図表の作り方(その2) .....	9
毎月人口世帯異動調査結果速報 .....	13
新市町村の横顔 .....	15
4月の農村物価賃金調査の概要 .....	17
いよいよ来るサイバネティクス時代 .....	19
水戸市における家計費の推移 .....	22
生産動態調査結果 .....	23
統計用語の解説・編集室 .....	26

1956.7

# 昭和31年夏期農業基本調査迫る

県では来る8月1日を期して県下一斉に昭和31年夏期農業基本調査を実施することになっています。この調査は毎年冬期、夏期の2つに分けて実施するもので、本県における農業政策樹立のための重要な資料を作成するものであります。調査企画課ではすでに調査用紙や調査要綱などの印刷を完了し、7月25日頃までに各支庁、市町村を通じて用紙の配付および調査員の指導・事務打合せ等を行って調査の万全を期しております。市町村関係者および調査員の皆様の御協力を心からお願いします。

## 1. 調査の目的

この調査は茨城県農業基本調査規則（昭和28年茨城県規則第58条）第2条の規定に基づき、農業の実態を調査し行政施策の基礎資料を作成するため市町村の協力のもとに実施する。

## 2. 調査の時期

昭和31年8月1日現在によって行う。

## 3. 調査の範囲

調査の時期に現存する次の農業事業体につき実施する。

### (一) 全部調査

1. 農業事業体（農家及び学校、会社、協同組合、試験場その他共同経営等）全般にわたって行う。
2. 農業事業体の最低規模は経営耕地面積5畝以上とする。

### (二) 一部調査

経営耕地面積5畝以上の農家（その他の農業事業体は除く）をいし抽出する。

## 4. 調査事項

### (一) 全部調査

1. 世帯主（管理者）の氏名
2. 専業兼業別農家数
3. 世帯員の数
4. 経営土地の面積
5. 田畑増減面積
6. 採草地面積
7. 農業収入源別農家数
8. 夏作物の作付面積

## 9. 果樹種類別面積

### (二) 一部調査

1. 経営土地の面積
2. 夏作物の作付面積（水稻、陸稲、大豆、甘藷）
3. 品種別作付面積（水稻、陸稲、大豆、甘藷）

## 5. 調査の機関

1. 市町村長は、知事の指揮を受けて、その区域内の調査を執行する。
2. 市町村長は、調査を執行するために、調査員を調査の担当者としてこれが指揮にあたる。

## 6. 調査及び集計方法

1. 調査員は、市町村長の指揮を受け担当区域内の農業事業体の世帯主（管理者）に調査票を配付するとともに記入を依頼する。但し、一部調査にあつては、調査員の面接による聞取調査を実施するものとする。
2. 調査員は、調査が終了したならば、調査票に調査もれや誤記がないことを確かめた後、農業事業体名簿の順に調査票を整理し8月5日までに市町村長に提出する。
3. 市町村長は、調査員から提出された調査票を審査し、不備の点は調査員に再調査させ、調査票が完全になつたならば市町村結果表の作成にあたる。
4. 集計の方法は結果表作成要領によること。

## 7. 調査票及び結果表の提出

1. 市町村長は、市町村結果表3部を作成し2部を調査票とともに8月25日（一部調査にありては9月5日）までに支庁長に提出する。
2. 支庁長は、市町村から提出されたる結果表を審査し不備の点は市町村長にただし、市町村結果表が完全になつたならば郡結果表を作成し、市町村結果表一部を支庁に保管し、一部を調査票及び郡結果表とともに9月5日（一部調査にありては9月15日）までに知事に提出する。

## 8. 結果の公表

県において内容を審査し、集計完了後すみやかに公表する。

# 最近における自作地の売買価格

農地部農地課調

自作農維持創設資金、特に農地購入のための資金の融通は、農地価格を吊り上げる誘因の一つになっているのではないかということが、最近、問題にされるようになってきた。

それは、昨年実施されたこの制度の第1年度の実績から見て、農地の購入資金が、全国的には、認定総額の35%（うち、自作地購入16%小作購入地19%）を占め、1件の金額が反当10万円をこえる事案も散見されるからであると思われる。

特に、本県の場合は、総体の50%（自作地購入20%、小作地購入30%）という数字を示しているの、早急に何らかの回答を求め、必要であれば適当な抑制措置、たとえば、反当貸付限度をその地方の平均取引価格とするようなことを購じなければならぬと考え、農業委員会を通じて、売買価格の事例調査を実施した。

また、本年4月、各支庁で開かれた安定計画実施簿記帳指導のための農業委員会職員講習会等において、この問題を呈示したところ、観念的なは握としては「一部にはそのようなことも考えられないわけではないが、融資の絶対額が農家の希望する資金需要に比べて極めて少量であり、農村の経済事情を動かす程のアクションにはなり得ない」というのが、大部分の回答であった。

ともあれ、何らかの資料にもとずいて、一応、実証的(?)な解釈を下さなければならぬので、前述照会の回答を中心に、昭和28年8月、調整係において、同一要領で調査したときの資料及び昨年度認定した自作地購入資金に関する安定計画書の数字等を比較して若干の考察を試みた。

なお、調査の企画に手落ちがあつたため、小作地購入資金には、ふれなかつたので、これは他日に譲りたい。

## I 適格認定

昭和30年度の本県の割当目標は、6,600万円であるが目標の20%増認定の中央の指示にもとずき認定した実績は次のとおりである。

第1表 昭和30年度貸付適格認定状況

区 分	水 戸 支 庁		土 浦 支 庁		下 館 支 庁		合 計	
	件	金 額 (千円)	件	金 額 (千円)	件	金 額 (千円)	件	金 額 (千円)
自作地資金	57	6,865	62	9,695	26	3,005	(%) 145 (20)	(%) 17,565 (20)
小作地資金	94	10,280	86	9,506	39	4,240	219 (30)	24,026 (30)
相続資金	7	690	3	430	2	361	12 (1.7)	1,481 (2)
維持資金	159	17,040	133	16,195	56	6,259	348 (48)	39,494 (48)
合 計	317 (45%)	34,875	284 (40%)	33,826	123 (15%)	13,865	724 (100)	82,566 (100)

認定後虚偽の申請発見により認定取消をしたもの等は修正をしていない。

## II 郡市別平均農地価格

昭和31年2月1日現在で、農業委員会から報告を求めた過去おおむね1ヶ年間の自作地の売買事例による農地価格は次表のとおりである。

第2表

(単位千円)

区 分	田			畑		
	高 値	普 通	安 値	高 値	普 通	安 値
市 平 均	120	78	51	114	68	42
東 //	148	96	65	92	55	40
西 //	147	92	71	95	64	42
那 //	146	105	70	122	80	48
久 //	148	99	51	112	71	37
多 //	119	81	48	115	56	30
鹿 //	105	77	50	77	47	30
行 //	128	93	59	81	51	32
稻 //	100	69	40	73	50	30
新 //	110	77	55	90	60	40
筑 //	130	100	70	93	67	43
真 //	125	97	67	88	67	46
結 //	117	77	60	100	57	33
猿 //	120	80	40	100	70	30
北 //	70	40	4	80	30	3
総 平 均	127	87	56	101	63	38

## III 農地価格の騰貴率

第3表

区 分	田 (普通価格)			畑 (普通価格)		
	28.8.1	31.2.1	指 数	28.8.1	31.2.1	指 数
市 平 均	千円 63	千円 78	124	47	68	144
東、//	52	96	184	32	65	203
西、//	56	92	154	44	64	145
那、//	48	105	218	36	80	222
久、//	65	99	152	53	71	134
多、//	50	81	162	33	56	170
鹿、//	41	77	188	25	47	188
行、//	46	93	202	27	51	189
稻、//	30	69	230	22	50	227
新、//	56	77	147	37	60	162
筑、//	56	100	178	39	67	172
真、//	49	97	198	37	67	181
結、//	46	77	167	39	57	146
猿、//	40	80	200	39	70	180
北、//	30	40	133	23	30	130
県 平 均	48.5	87	180	35.5	63	175

指数は28.8.1を100とする。

第2表と同一要領によって調査した昭和28年8月1日の農地価格を100として普通平均を比較すると、田は80%、畑は75%の騰貴が見られる。

これを同期の農村物価資金調査(総務部調査企画課)と比較すると、一般物価に比べ農地が異状な騰貴率を示していることがわかる。この騰貴は、自作農維持創設資金制度の実施前から見られることで、基地問題等からする土地の観念的な評価、宅地目的の売買等に影響されたものと見るべきであろう。

農村物価の比較

区 分	28.8.1	31.2.1
農家生産物販売価格指数 (粳米外38品目単位当平均価格の単純算術平均)	100	97
農家購入品購入価格指数 (硫安外43品目単位当平均価格の単純算術平均)	100	85

IV 自作地資金により購入した農地

自作地購入を目的とした申請(安定計画書)に記載されている農地の購入面積、購入価格等は、下表のとおりである。

第4表 (田)

区 分	件 数	購入面積 (反)	同 左	購入価格	同 左	借入金額	同 左	融 資
			(1件平均)	(総額)	(反当)	(総額)	(反当)	依存率
水戸支庁	35	62.3	1.724	千円 4,834	円 76,360	千円 3,740	円 60,030	% 77.3
土浦支庁	33	60.9	1.812	4,925	80,870	4,161	68,320	84.4
下館支庁	11	12.3	1.100	1,204	97,880	1,070	86,990	88.8
計(平均)	79	135.5	1.700	10,963	80,907	8,971	66,206	81.8

第4表 (畑)

区 分	件 数	購入面積 (反)	同 左	購入価格	同 左	借入金額	同 左	融 資
			(1件平均)	(総額)	(反当)	(総額)	(反当)	依存率
水戸支庁	35	78.8	2.215	千円 5,346	円 67,840	千円 3,876	円 49,180	% 72.5
土浦支庁	12	24.8	2.018	1,620	65,320	1,380	55,640	85.1
下館支庁	20	27.3	1.318	2,258	93,690	1,893	69,340	83.8
計(平均)	67	130.9	1.915	9,224	70,460	7,149	54,610	77.5

(注) 1号資金及び昭和30年中に自作地を購入したために必要を生じた負債整理の6号資金のうち、地目、面積等の明らかなもの全部、1件の申請が田畑にわたるものは関係部分を分離して双方に計上した。

すなわち79人が平均反当 66,206円の融資を利用して 80,907円の水田 1反700を67人が反当 54,610円の融資を受けて 70,460円の畑を 1反915購入したことになる。所要資金に対する借入資金の割合は県平均水田 81.8%畑77.5%となり、一般に県北(水戸支庁管内)は自己資金の調達率が高くなっている。

本資金が、農地価格をつり上げる誘因になっているとすれば、安定計画にあらわれた反当平均購入価格が一般の取引価格に比し相当高価な額を示すはずであると思われたが、第2表郡市別平均農地価格と対象して見てもわかるとおり田、畑、とも高値平均を下まわり普通値に比しては、畑が約7,000円(11.7%)高いのみで水田は約6,000円(8%)安くなっている。このような傾向から見て融資が農地価格をつり上げているという結論をみちびき出すのは困難であろうと考える。

# 毎月勤労統計調査結果速報

(昭和31年4月分)

労働省大臣官房労働統計調査部

茨 城 県

--- 結 果 の 概 況 ---

## 1. 期末手当打切りのため給与は減少

4月における調査産業総数の常用労働者1人当り現金給与総額は15,154円で前月に比して1,019円の減少である。この減少は3月の期末手当打切りが主因である。さらに産業別に観察すれば金融保険業が13,814円と大巾に減少、次いで運輸通信業が2,845円の減である。これと反対に定期昇給や残業早出などによつて増加したものは電気機械器具製造業、機械製造業などである。

※きまつて支給する給与も106円の僅少な減少である。然し製造業が449円と増加したのは定期昇給と業態が活況を呈したことによるものである。※特別に支払れ

た給与は1,125円と大巾に減少した。特に金融保険業は15,332円、運輸通信業は2,738円と期末手当の完全打切りによつて急減した。

さらにこれを規模別に見ると規模1(従業者100人以上)は規模2(従業者100人以下30人以上)より一般に高い給与水準であるが紡織業及び商業のみは小企業の方が反対に高い給与である。この事は特に注目すべきことで経営主が一般従業者として扱れているのが一つの原因でもあろうが、それは別として説明すべき多くの課題がひそんでいるのではなからうか？

産 業 別	現金給与総額	対前月差		きまつて支給する給与		対前月差		特別に支払れた給与		対前月差	
		円	円	円	円	円	円	円	円		
総 数	15,154	- 1,019	14,917	- 106	237	- 1,125					
D 鉱 業	14,768	+ 243	13,795	- 176	973	+ 819					
F 製 造 業	14,486	+ 507	14,344	+ 449	142	+ 58					
20 食 料 品 製 造 業	11,759	+ 486	11,759	+ 486	0	+ 486					
22 紡 織 業	6,968	+ 364	6,968	+ 364	0	+ 364					
35 機 械 製 造 業	13,597	+ 499	13,374	+ 276	223	+ 223					
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	17,090	+ 651	17,072	+ 633	18	+ 18					
G 卸 売 及 び 小 売 業	11,910	- 1,630	11,899	- 787	11	- 843					
H 金 融 及 び 保 険 業	21,382	- 13,814	21,232	+ 1,518	150	- 15,332					
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	16,739	- 2,845	16,739	- 107	0	- 2,738					
E 建 設 業	9,948	+ 19	9,948	+ 19	0	0					
K88 医 療 保 健 業	14,471	- 437	14,359	+ 269	112	- 706					

### ◎現金給与総額

産 業 別	規 模 1	規 模 2
	円	円
総 数	15,981	12,783
D 鉱 業	15,049	10,063
F 製 造 業	15,935	9,562
20 食 料 品 製 造 業	12,320	10,493
22 紡 織 業	6,664	7,704
35 機 械 製 造 業	14,736	11,372
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	18,110	10,717
G 卸 売 及 び 小 売 業	10,530	12,676
H 金 融 及 び 保 険 業	22,058	20,929
J 運 輸 通 信 業 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	17,172	15,769
E 建 設 業	10,266	9,706
K88 医 療 保 健 業	15,208	13,811

## 2. 労働時間はやや増加

常用労働者の月間実労働時間数は産業総数で198.2時間で1.6時間の増加となつた。所定内労働時間数も180時間で1.2時間、所定外労働時間は18.2時間で0.4時間の増加である。出勤日数は24.1日で僅かであるが2日の増加となつた。

本月末常用推計労働者は66,588人 男58,250人、女13,333人で1,430人の増加である。特に電気機械器具製造業の1,077人の増加は注目される。減少では建設業の848人が最高である。

第1表 産業常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額  
(規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまで支給する給与			特別に支払われた給与			臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
<b>全 常 用 労 働 者</b>										
総 数	15,154	17,053	7,450	14,917	16,777	7,373	237	276	77	289
D 鉱 業	14,768	15,613	6,250	13,795	14,596	5,713	973	1,017	537	285
F 製 造 業	14,486	17,090	6,582	14,344	16,918	6,532	142	172	50	301
20 食 料 品 製 造 業	11,759	14,036	5,257	11,759	14,036	5,257	0	0	0	314
22 紡 織 業	6,968	14,496	5,572	6,968	14,496	5,572	0	0	0	217
35 機 械 製 造 業	13,597	14,700	6,960	13,374	14,461	6,835	223	239	125	184
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	17,090	18,768	7,903	17,072	18,752	7,874	18	16	29	289
G 卸 売 及 び 小 売 業	11,910	13,428	6,786	11,899	13,417	6,786	11	11	0	364
H 金 融 及 び 保 険 業	21,382	26,708	11,721	21,232	26,512	11,653	150	196	68	0
T 運 輸 通 信 業 及 び E 其 他 の 公 益 事 業	16,739	17,721	10,057	16,739	17,721	10,057	0	0	0	256
E 建 設 業	9,948	10,734	5,082	9,948	10,734	5,082	0	0	0	338
K88 医 療 保 健 業	14,471	22,192	9,742	14,359	22,094	9,622	112	98	120	0
<b>生 産 労 働 者</b>										
D 鉱 業	14,516	15,246	5,510	13,589	14,274	5,141	927	972	369	—
F 製 造 業	12,143	14,435	6,050	12,022	14,277	6,029	121	158	21	—
20 食 料 品 製 造 業	10,088	12,305	4,675	10,088	12,305	4,675	0	0	0	—
22 紡 織 業	5,793	10,078	5,470	5,793	10,078	5,470	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	12,367	13,152	6,510	12,367	13,152	6,510	0	0	0	—
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	14,387	15,676	7,410	14,371	15,663	7,377	16	13	33	—
E 建 設 業	7,789	8,414	4,339	7,789	8,414	4,339	0	0	0	—
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 労 働 者</b>										
D 鉱 業	16,245	18,039	8,056	14,999	16,727	7,108	1,246	1,312	948	—
F 製 造 業	20,055	22,729	8,432	19,864	22,528	8,280	191	201	152	—
20 食 料 品 製 造 業	16,031	17,862	7,664	16,031	17,862	7,664	0	0	0	—
22 紡 織 業	13,701	17,159	7,184	13,701	17,159	7,184	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	16,388	18,839	7,467	16,165	18,600	7,342	223	239	125	—
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	21,944	24,390	8,794	21,922	24,369	8,771	22	21	23	—
E 建 設 業	13,607	14,498	6,759	13,607	14,498	6,759	0	0	0	—

第2表 産業、常用労働者の種類別及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数(規模80人以上)

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
	時	時	時	時	時	時	時	時	時	日	日	日
<b>全 常 用 勞 働 者</b>												
總 数	198.2	199.7	192.0	180.0	178.7	184.9	18.2	21.0	7.1	24.1	24.0	24.5
D 鉱 業	187.1	188.2	176.4	166.4	166.1	169.4	20.7	22.1	7.0	22.8	22.8	23.5
F 製 造 業	206.4	210.1	195.4	183.4	182.0	187.6	23.0	28.1	7.8	24.6	24.6	24.5
20 食 料 品 製 造 業	196.6	197.1	195.2	180.8	178.9	186.1	15.8	18.2	9.1	24.7	24.9	24.0
22 紡 織 業	200.2	224.2	195.7	194.1	200.6	192.9	6.1	23.6	2.8	24.3	25.1	24.2
35 機 械 製 造 業	225.7	226.6	220.8	199.5	197.7	210.5	26.2	28.9	10.3	25.9	25.8	26.4
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	210.5	212.4	200.3	182.5	181.8	186.3	28.0	30.6	14.0	24.8	24.7	25.3
G 卸 売 及 び 小 売 業	195.4	189.0	216.6	187.2	179.0	214.5	8.2	10.0	2.1	25.8	25.3	27.5
H 金 融 業	182.6	183.8	180.5	173.7	174.6	172.2	8.9	9.2	8.3	25.0	25.1	24.9
E 建 設 業	191.4	193.2	178.6	181.2	182.4	172.5	10.2	10.8	6.1	23.5	23.4	23.6
K88 医 療 及 保 健 業	183.5	184.0	180.4	176.0	176.3	174.0	7.5	7.7	6.4	23.0	23.1	22.6
T 運 輸 通 信 及 び その他の公益事業	201.9	205.5	199.7	184.3	183.1	185.0	17.6	22.4	14.7	24.1	24.2	24.0
<b>生 産 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	184.9	185.7	174.8	164.3	163.9	168.9	20.6	21.8	5.9	22.4	22.4	23.0
F 製 造 業	207.9	212.4	196.1	183.5	181.6	188.7	24.4	30.8	7.4	24.6	24.6	24.5
20 食 料 品 製 造 業	194.8	195.0	194.4	177.9	174.7	185.7	16.9	20.3	8.7	24.7	25.0	23.9
22 紡 織 業	197.0	221.2	194.9	192.7	192.9	192.4	4.3	28.3	2.5	24.1	24.2	24.1
35 機 械 製 造 業	226.9	227.6	221.8	198.3	197.0	208.1	28.6	30.6	13.7	25.9	25.9	26.1
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	214.4	215.9	206.6	183.9	182.7	190.8	30.5	33.2	15.8	25.1	24.9	26.1
E 建 設 業	167.8	167.6	168.7	164.2	163.5	167.7	3.6	4.1	1.0	21.7	21.7	21.8
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	200.5	204.6	179.9	178.7	180.5	170.4	21.5	24.1	9.5	25.2	25.3	24.7
F 製 造 業	202.8	205.1	192.8	183.0	182.8	183.6	19.8	22.3	9.2	24.6	24.6	24.3
20 食 料 品 製 造 業	201.2	201.7	198.9	188.2	188.2	188.1	13.0	13.5	10.8	24.8	24.8	24.7
22 紡 織 業	219.9	226.0	208.8	203.8	205.3	201.2	16.1	20.7	7.6	25.5	25.7	25.1
35 機 械 製 造 業	222.3	224.2	219.2	202.8	200.7	214.3	19.5	23.5	4.9	25.7	25.5	26.9
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	203.3	205.9	188.9	179.9	180.2	178.1	23.4	25.7	10.8	24.4	24.5	23.9
E 建 設 業	210.0	210.4	206.8	196.0	197.0	188.2	14.0	13.4	18.6	25.2	25.3	24.5



第3表 産業常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員(規模30人以上)

産 業 名	前日末労働者数			本日中の増加			本日中の減少			本日末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
<b>全 常 用 勞 働 者</b>													
總 数	65,153	52,427	12,726	2,878	1,935	943	1,448	1,112	336	66,583	53,250	13,333	45,017
D 鉱 業	10,740	9,788	952	418	347	71	421	382	39	10,737	9,753	984	8,555
F 製 造 業	32,680	24,657	8,023	1,932	1,242	690	644	427	217	33,968	25,472	8,496	27,074
20 食 料 品 製 造 業	2,956	2,194	762	59	40	19	68	56	12	2,947	2,178	769	4,639
22 紡 織 業	2,760	434	2,326	189	21	168	32	1	31	2,917	454	2,463	369
35 機 械 製 造 業	2,054	1,768	286	176	141	35	34	33	1	2,196	1,876	320	38
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	16,207	13,753	2,454	1,077	743	334	220	177	43	17,064	14,319	2,745	10,487
G 卸 売 及 び 小 売 業	4,102	3,189	913	225	118	107	77	56	21	4,250	3,251	999	11
H 金 融 及 び 保 險 業	2,555	1,647	908	81	48	33	30	15	15	2,606	1,680	926	0
T 運 輸 通 信 及 び E 其 他 の 公 益 事 業 設 業	15,076	13,146	1,930	222	180	42	276	232	44	15,022	13,094	1,928	9,377
K88 医 療 保 健 業	7,131	6,103	1,028	472	449	23	843	696	147	6,760	5,856	904	90,342
	2,386	918	1,468	130	101	29	76	13	63	2,440	915	15	0
<b>生 産 勞 働 者</b>													
D 鉱 業	9,187	8,508	679	343	299	44	374	345	29	9,156	8,462	694	—
F 製 造 業	22,902	16,701	6,201	1,648	1,033	615	544	353	191	24,006	17,381	6,625	—
20 食 料 品 製 造 業	2,121	1,508	613	48	31	17	47	37	10	2,122	1,502	620	—
22 紡 織 業	2,339	160	2,179	182	14	168	31	0	31	2,490	174	2,316	—
35 機 械 製 造 業	1,508	1,333	175	139	120	19	31	31	0	1,616	1,422	194	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	10,363	8,819	1,544	907	616	291	175	141	34	11,095	9,294	1,801	—
E 建 設 業	4,558	3,831	727	431	408	23	810	672	138	4,179	3,567	612	—
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>													
D 鉱 業	1,553	1,280	273	75	48	27	47	37	10	1,581	1,291	290	—
F 製 造 業	9,778	7,956	1,822	284	209	75	100	74	26	9,962	8,091	1,871	—
20 食 料 品 製 造 業	835	686	149	11	9	2	21	19	2	825	686	149	—
22 紡 織 業	421	274	147	7	7	0	1	1	0	427	280	147	—
35 機 械 製 造 業	546	435	111	37	21	16	3	2	1	580	454	126	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	5,844	4,934	910	170	127	43	45	36	9	5,969	5,025	944	—
E 建 設 業	2,573	2,272	301	41	41	0	33	24	9	2,581	2,289	292	—

# 統計図表の作り方

## [その2]

### 3 棒図表について

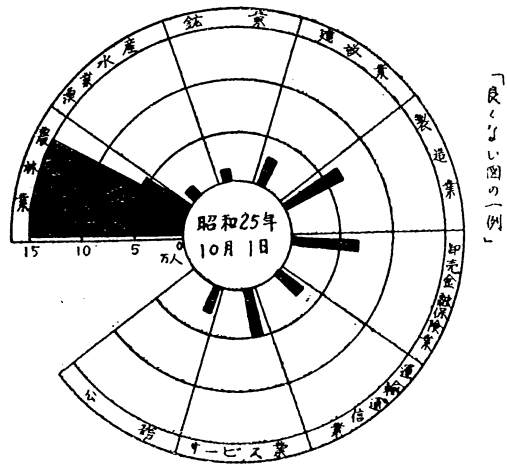
棒図表とはある程度の幅を持つた直線、すなわち棒の形（タンザク形）をしたものを幾本か並べてその長短により数の大小を比較する図表で、統計図表としては最も普通に行われるものである。棒図はその表現方法が簡単であるだけ、だれにも容易に理解し得るのが特長である。各種の宣伝に好んで用いられ、広告にさえ往々使われるのは人のよく知るところであろう。広く使われるだけに棒図についての間違つたかき方もかなり多く行われている。棒図は下から上へ棒を立て並べるばかりでなく、これを横の形に並べる図形もよく使われる。また場合によっては、棒を上から下へつりさげたような形にすることもある。

#### ①棒の幅

まず棒の幅であるが、これは原則として1図内の各棒は均一なる幅を持たねばならぬ。長短により大小を比較する以上各棒の表わす対象は同じ又は対等の性質のものに相違ないから、棒の幅もまた同じでなければならぬのである。長短の比較だから幅はどうでもよいというものではなく、幅が不同であると、表現する対象の性質に軽重の差があることと思わせ、見る者に誤つた印象を与える。最初に位置をとりそこなつて、おしまいの方をかく段になつて、紙幅が足らぬためにある棒だけを幅狭くするような例は、統計図表をかき馴れぬ人に往々見かけるが、このような場合には、図を全部かき直さねばならぬのである。また最近一部分だけを特に目立たしめて印象せしめんがために、幅広くかくというような例も広告図案にはよく見かけるが、やはり比較の正確さが侵されるから、統計図表としては避くべきことである。並べた棒の幅がみな同じでも、それが画面に対してあまりに細かつたり、太かつたりすると、見にくい図表となる。ゆえに棒の幅は画面全体に対して均勢のとれたのが望ましく、均勢を失わぬ程度において、棒の幅は広くする方が印象的であるのはいうまでもない。統計図表を装飾的ならしめんとして、棒図を扇形や円形の中におさめてあるのを往々見かける。これは見た目には美しいが、統計図表としては種々の欠点がある。いま、棒の幅だけについてみても、棒の幅が上下で異なるようにかいてある場合がある。これは基底が円または半円であるために、その形に合わさんとして棒の下部が狭くなり上部が広がるが、こういう図では長い棒は広いものとなり、短い棒は狭いものとなって見た目には長い棒の表示する量はその長さ比べて

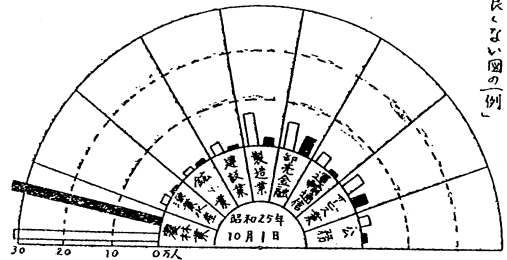
不当に大きなもの、短い棒の表示する量は不当に小さいもののように感ぜられ、比較をハッキリ示すという統計図表の目的から不適当な図示になっている。良くない図

オ1図  
茨城県の産業別就業者数



「良くない図の一例」

オ2図  
茨城県産業別男女別就業者数

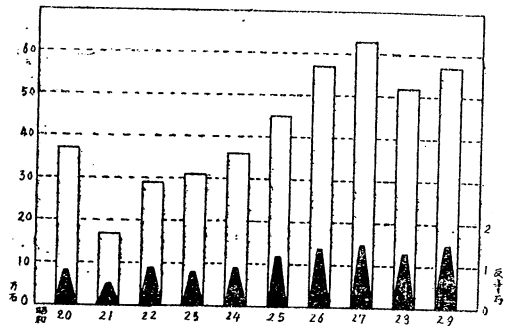


「良くない図の一例」

の例として第1、2図を掲げた。同じく同形や半円を基底とする棒図であつても棒の幅を同一にして置けば、以上の欠点は免かれるわけであるが、棒と棒との間隔及び目もりにおいて感心し難いもので、この種の図示方法を選けた方がよいのである。棒の幅に不同のあることはいけなひのだから同じ理由によつて棒の代りに三角形を使うことなども良くないのである。この場合も棒の長短により三角形の幅が異なるという欠点がある。三角形のかき方では、基底の幅が一定だから長いものは先端が非常な鋭角となり、たんに長短だけを比較するとしても見づらくなつてしまう。その上基底が円形又は半円のような場合には、長短の比較が一層困難になる、しかしこ

それを水平の直線上に並べても、見る者に与える間違つた印象は五十歩百歩で、このような図表は原則的に避くべきである。普通の棒図が簡明でわかりよいというのは、棒の長短だけを見て取ればよいからであるが、その長短の印象をハッキリさせるためには各棒の幅が均一でなければならないのである。棒の幅が均一ならば、棒の面積はその長短に正比例するが、幅が均一でない場合の長短と面積とは正比例しなくなるから、見る者はその面積の大小により受ける印象に妨げられて、棒の長短によつて表わされた数値をハッキリ受け入れ難くなるのである。ゆえに棒の代りに三角形を使う場合でも、1図中にかくその三角形の高さに大差のない場合には(第3図)面積

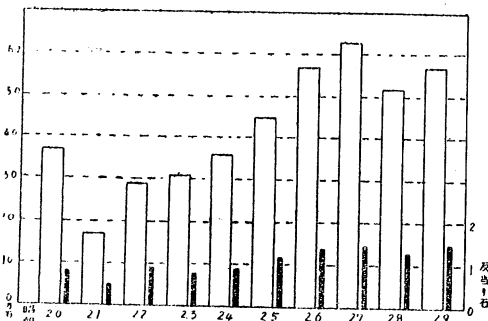
オ 3 図  
茨城県の小麦産額



の不比例より受ける印象が薄いから、さほど見にくく図とはならない。これは三角形に限らず、その他の異形の棒を使う場合も同じことで、この程度のものであれば、図形に変化を与えるという意味で見のがしてよいと思われる。しからば、どの程度の差まで、この種の図形を使つてよいかということは、一概に定め難いが、大体数値の差が2割以上にもなると、面積の不同より受けるが印象強くなるから、2割以上も差のある数字ならばこの種の図示方法は避ける方がよい。

第3図は三角形の頂点は特に鈍角にしてあるが、これは比較を容易ならしめるためで、もしこれを針の先のように鋭くすると、長さが不明確になつて一見して比較に

オ 4 図  
茨城県の小麦産額



困難な図となるおそれがある。棒図の生命はその長さの明確なることにあるのだから、これを不明確ならしめることは避けねばならぬ。

第4図は、第3図と同じ統計を図示したもので、三角形の代りに幅狭い棒を添えることによつて反当り取量を示してあるが、こうすれば三角形を使わずとも同じ事柄を同じ画面に普通の棒図となし得るのである。

第4図について説明すべきは、広狭2種類の棒を使用した点である。前に1図中の棒の幅は常に同じでなければならぬと述べたが、これは同性質または対等の性質を持つ事柄を示す場合であつて、第3図、第4図では太い棒は茨城県の小麦生産額を示し、細い棒はその1反歩当り平均取量を示したので、互に性質を異にする数値であり、反当り取量の比較はここでは附説的に示したのであるから、このような場合には大小2種の幅の棒を使つて表わすことが適当である。そして見る者をして二者を混同させないように大小の棒の図柄は変えておくがよい。また附説的または附属的のものでなく、対立的のものを表示する場合には、棒の幅を同一にして図柄だけを変えて区別する方法によるのが適当である。対立的というのは輸出と輸入を同時に示すとか、貸出と借入を同時に示すとかいう場合であり、附説的というのは総生産と同時に1工場当り産額を示すとか、総消費高とともに1人当り消費高を示すとかの類である。

#### 4 棒の並べ方

棒の並べ方について第一の原則は、棒と棒との間隔が均一でなければならぬことである。そしてその均一な間隔で、棒の幅及び画面全体との均勢の取れたものにかくのがよいことはいうまでもない。しかし、間隔の均一についても例外はある。たとえば、総産額と反当り取量とを別々の棒で同一画面に示すような場合には、その総産額と反当り取量とは同一年内の事実で、この2つの事実を累年的に比較するのであるから、その幅広い棒(総産額)と幅狭い棒(反当り取量)とは、1カ年づつ密接させてかき、年度と年度との間隔はこれより少しく広く取つて、累年比較を明らかにすることが必要である。ゆえに、もし3つの性質の異なる事実を累年的に比較するならば、同一年度の3本ずつを密接させ、4つの事実ならば4本ずつ密接させてかくわけであるが、しかし、これが5本、6本というようにあまり同一年度の棒の種類が多くなると画面が複雑になつて一見してハッキリと印象せしめるという統計図表本来の目的から漸次に遠ざかるようになる。彩色図表などでは、赤は何、青は何、黄は何というように数本又は十本位の棒を同一年度ごとにまとめた累年比較をよく見かけるが、感心しないものといわねばならぬ。こういうときは、むしろ図をいくつかに分けて同性質の棒を累年にして見せた方が印象がハッキリ

りする。同一年度内に一括し得る棒の数は何本位までを限度とするかという問題は、時と場合により異なるから一概にはいえないが、印象をハッキリせしめるという点からみて3本位までが適当であろうと思う。棒を並べる順序は、各主体間の大小を比較するような場合には、なるべく棒の長さの順に、長いものから短いものへと並べるのが見やすい。多数の棒を長短入り乱れてかくと、少しの差は長短が見分け難くなる。長さの順序にかいてあれば、その図によつて各主体間の順位もわかり、図上ではほとんど見分けられぬような差でも、その順位で多いか少ないかがわかつて便利である。ただし、一定の順序で各主体を並べるというのも一種のやり方で、幾枚もの図表に同一主体の各種の事柄を比較する場合などはこの方法も主体を捜しやすい便利さはある。しかし棒の数がはなはだ多いときは、やはり数値の大小順の方が見やすい。また年を追つての変化を示すような棒図においては、年の順に棒を並べるのはいうまでもない。なお、棒の並べ方については、棒の折り曲げ、棒の重ね合わせなどのこともあるが、その前に棒図において最も大切な目もりについて述べるのがよい。

## 5 目もり

棒図にはその棒の表わす数値を示すために目もりをつけるが、この目もりは必ず零から始まらねばならない。棒の表示する数値がどれ程大きいものであつても、棒の立っている基底の線は常に零でなければならぬ。これは棒図における根立原則であつて、目もりの数字が零から始まらずに、途中から始まつている図表はたいいての場合に誤つたかき方のものが多い。目もりは基底線を零とし、それから1cmの間隔のところを10と決めるならば、2cmのところは20、3cmのところは30、4cmのところは40というように均等の間隔で目もりを取るのである。もし、基底線から1cmのところを1,000とすれば、2cmのところは2,000、3cmのところは3,000となる。基底を零とすること、目もりを等間隔にすることなど、だれにでもわかりそうなものだが、統計図表の間違ひの3、4割は、みなこの両原則に関係がある。せつかく美しい図表をかき上げながら、こんなつまらヌ点で誤りを犯し、統計図表の価値を台なしにしているものがある。思うに従来博覧会、展覧会、講演会等で展覧に供する統計図表の多くはいわゆるカンパン屋又は装飾屋にまかせ切りででき上つてからも、注文主にその要点を見る目が無いのでこんな結果になるのだと思われる。基底線の目もりが常に零でなければならぬのは、棒の長さがその表示する数値の全部を表わすものでなければならぬという意味である。

別掲の第1、2、3図は茨城県四市の人口を比較したもので、この第1図のように棒の基底を零でなく、特定

の数(この場合は10,000人)に取ると、この図の各市の棒の長さはみなその各々の実数より10,000人だけを減じた長さとなり、したがつて比較は各市の人口総数からそれぞれ10,000人をさし引いた人口の比較となるのである。第3図では基底線を零として目もりを正しく取つてあるから、この関係は正当に表示されている。各市がすべて10,000人以上であるから、10,000人以下の目もりは不必要であろうなどの考え方をしてはならないのである。基底線を零としない棒図表はすべてこのような誤つた比較となるのである。

零以上の目もりはあるいは1、2、3、4と順序数にするか、あるいは2、4、6、8と偶数だけを取るか、あるいは10位とするか、100位とするか、1,000位とするか、10,000位とするかは、すべてその表示すべき数値と、図表の大きさ、形状等によつて決すること、かく者の仕意である。比較が正しく、なるべくわかりやすいようにすればよいのである。

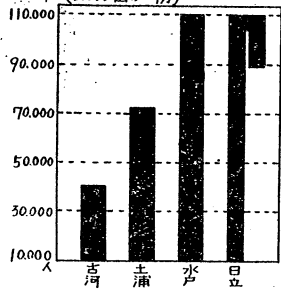
目もりを等間隔に取らないために比較が不正確となつている例は第2図である。この図では基底は零線であるけれども次の25,000人及び50,000人までは一コマが25,000人ずつであるのに、50,000人から130,000人までは同じ間隔が10,000人を表わすこととなつており、このような図が正確な比較を示さないことは今さら説明するまでもないことである。目もりは原則として等間隔に取り、その等間隔がみな同じ数値を表わすべきであるが、特別の場合には図表の必要部分だけさらに細かい目もりを施した方がわかりよいこともある。第3図はその例で、50,000人以下に細別目もりを施し、人口の少ない数値がよくわかるようにしてあるのである。目もりの数字は図の左外側に記するのが普通である。これを図中へ入れると図表を見る目ざわりになるからである。また目もりは印を付けて数値を記するだけでも足りるわけだが、図中へ線を入れることにより見る者にとつて棒の長さの観測が容易となる。単に二、三本の棒を比較するような幅の狭い図でも目もり線を図中へかき込むことは必ずしも必要とはいわぬが、多数の棒を並べる幅広い図になると、中へ線を引いてないと、外側の目もりから距離の遠い棒の長さの目測が困難となるから、このような場合は図中へ目もり線を引くことが必要である。図中へ引く目もりは、実線でも点線でもよいが、あまり太くないものがよく、図の混雑を避けるために点線を用いることがよく行われる。色彩図表であれば、あまり目ざわりにならぬ色で実線を引いてよからう。目もり線に点線を使うときでも零線は基底線で図の外わくとなるのだから実線を用いる。この基底線は大切な線であるから、特にいくらか太い線を引く方がよろしい。二つの事柄を示す棒を並べるとき、二種類の数値を記するには、左右両側に目もり数字を記入するがよい。もし、三種類の数値が必要なれ

ば、左右どちらか的一方へ二種、他方へ一種を記入し、四種類であれば左右へ二種ずつつけることにしたい。しかし、三種類も、四種類も異種の目もりを同一図表へかき込むと、図表が複雑となつて、一見してハッキリと比較を知るといふ図表本来の目的にそい難いものになりがちであるから、なるべくならば目もりは二種類ぐらいにして、三種類以上の目もりを同一図表にかくことは避けたいものである。

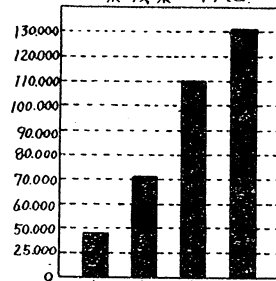
二種類の数値を左右に分けるときでも、別々の目もりを取つてこの目もりを図中へ引くと、図が複雑で見にくくなるから、同一の目もり線を左右で兼用するようにしたい。棒図表は目もりの取り方いかんで、全体が縦に長

い図にもなれば、横に平つたい図にもなる。第4図と第5図を比べればこの関係がよくわかるであろう。この両図はともに茨城県の大麦収穫高を示し、同じ量を表わすものだが、第5図の方は何だか収穫高がたいへん多いように思われる。これは図の形から受ける心理的影響で、宣伝用の統計図表などにはよくこんな画法が用いられる。しかし、棒図の見方としては、いつでも図中の数値の比較を見るべきで、一般に棒が長くかいてあるか、短かくかいてあるかは重要事ではないのである。目もりを大きくとれば、どんな長い棒でもかけるわけであるが、要は各棒の長短の比較にあるのだから、この比較のなるべく見やすいことを主眼とすべきである。

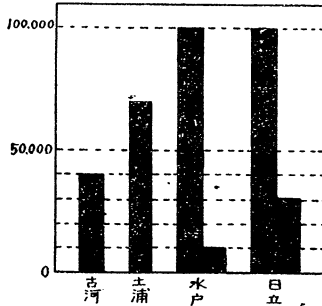
1図 茨城県の四市人口  
(良い図の一例)



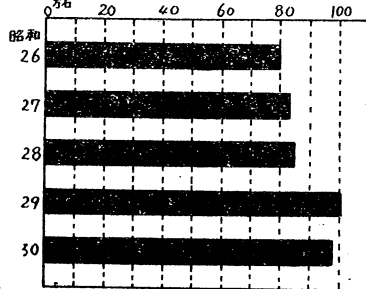
2図 茨城県四市人口



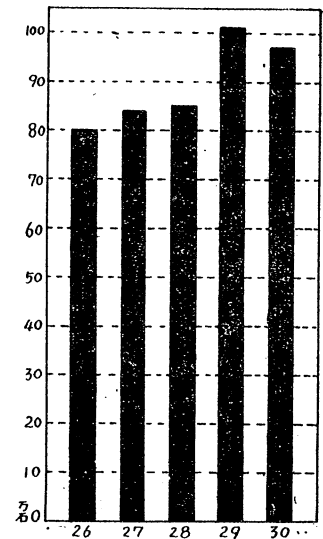
3図 茨城県四市人口



4図 茨城県の大麦収穫高



5図 茨城県の大麦収穫高



# 毎月人口世帯異動調査結果速報

(昭和31年4月分)

茨城県調査企画課

## 1. 前月との比較

月別	区分	世帯数	人 口			移 動 内				訳		そ の 他	
			総 数	男	女	県 内		県 外		出生	死亡	増加	減少
						転入	転出	転入	転出				
3 月		384,596	2,075,549	1,010,011	1,065,538	4,761	5,787	3,298	8,299	3,823	1,733	560	402
4 月		384,628	2,073,739	1,008,951	1,064,788	7,302	7,117	4,425	8,629	3,527	1,356	406	368
増 減		32 △	1,810 △	1,060 △	750 △	2,541	1,330	1,127	330	296 △	377 △	154 △	34 △

△印は減をあらわす

## 2. 市郡別、世帯数及び人口数

市 別	区分	世帯数	人 口			区分	世帯数	人 口					
			総 数	男	女			郡別	総 数	男	女		
県 計		384,628	2,073,739	1,008,951	1,064,788								
市 計		158,752	793,336	386,253	407,083	郡 計	225,876	1,280,403	622,698	657,705			
水戸市		23,757	111,208	53,520	57,688	東茨城郡	27,967	151,829	73,670	78,159			
日立市		27,674	132,759	66,265	66,494	西茨城郡	17,489	96,207	46,659	49,548			
土浦市		15,895	72,499	35,208	37,291	那珂郡	20,972	114,855	56,238	58,617			
古河市		8,195	40,626	19,021	21,605	久慈郡	14,573	79,854	38,705	41,149			
石岡市		7,253	36,312	17,536	18,776	多賀郡	2,993	15,126	7,469	7,657			
下館市		9,598	52,822	25,577	27,245	鹿島郡	20,964	122,815	59,686	63,129			
結城市		6,917	39,658	19,097	20,561	行方郡	13,041	75,473	36,487	38,986			
竜ヶ崎市		6,664	34,396	16,687	17,709	稲敷郡	20,643	115,300	56,095	59,205			
那珂湊市		6,864	33,509	15,549	17,960	新治郡	15,854	89,584	44,024	45,560			
下妻市		5,576	32,060	15,371	16,689	筑波郡	17,195	98,018	47,911	50,107			
水海道市		7,306	40,057	19,332	20,725	真壁郡	13,888	81,767	39,662	42,105			
常陸太田市		7,722	39,567	19,239	20,328	結城郡	9,406	57,015	27,695	29,320			
勝田市		7,097	36,587	17,946	18,641	猿島郡	20,445	126,188	61,021	65,167			
高萩市		6,569	31,594	15,700	15,894	北相馬郡	10,446	56,372	27,376	28,996			
北茨城市		11,665	59,682	30,205	29,477								

# 毎月人口世帯異動調査結果速報

(昭和31年5月分)

茨城県調査企画課

## 1. 前月との比較

区分 月別	世帯数	人 口			移 動 内 訳							
		総 数	男	女	県 内		県 外		出生	死亡	そ の 他	
					転入	転出	転入	転出			増加	減少
4 月	384,628	2,073,739	1,008,951	1,064,788	7,302	7,117	4,425	8,629	3,527	1,356	406	368
5 月	384,796	2,074,099	1,009,048	1,065,051	4,675	4,532	3,113	5,087	3,363	1,367	470	275
増 減	168	360	97	263	△ 2,627	△ 2,585	△ 1,312	△ 3,542	△ 164	11	64△	93

△印は減をあらわす。

## 2. 市郡別世帯数及び人口数

区分 市 別	世帯数	人 口			区分 郡 別	世帯数	人 口		
		総 数	男	女			総 数	男	女
県 計	384,796	2,074,099	1,009,048	1,065,051	郡 計	225,853	1,280,133	622,474	657,659
市 計	158,943	793,966	386,574	407,392	東茨城郡	27,944	151,702	73,587	78,116
水戸市	23,815	111,551	53,748	57,803	西茨城郡	17,471	96,236	46,666	49,570
日立市	27,723	132,916	66,326	66,590	那珂郡	21,000	114,885	56,232	58,653
土浦市	15,893	72,570	35,233	37,337	久慈郡	14,571	79,815	38,689	41,126
古河市	8,215	40,714	19,072	21,642	多賀郡	2,998	15,123	7,467	7,656
石岡市	7,260	36,249	17,486	18,763	鹿島郡	20,960	122,789	59,680	63,109
下館市	9,611	52,829	25,560	27,269	行方郡	13,043	75,434	36,467	38,967
結城市	6,922	39,678	19,112	20,566	稲敷郡	20,660	115,308	56,093	59,215
竜ヶ崎市	6,663	34,405	16,691	17,714	新治郡	15,848	89,577	44,023	45,554
那珂湊市	6,869	33,481	15,504	17,977	筑波郡	17,189	97,912	47,860	50,052
下妻市	5,575	32,047	15,362	16,685	真壁郡	13,870	81,714	39,632	42,082
水海道市	7,305	40,040	19,332	20,708	結城郡	9,404	56,992	27,665	29,327
常陸太田市	7,712	39,504	19,221	20,283	猿島郡	20,448	126,211	61,029	65,182
勝田市	7,116	36,701	18,030	18,671	北相馬郡	10,447	56,435	27,384	29,051
高萩市	6,594	31,658	15,741	15,917					
北茨城市	11,670	59,623	30,156	29,467					





# 村の横顔

## やまがた 山方町

### 1. 沿革

水戸から水郡線で緑したたる山谷に美しく植揃った田の面を眺めながら北上すること約1時間、小さいトンネルを脱げると、間もなく視界は開けて久慈の清流に出る。ここが昔からの宿場として、また佐竹藩の山方館として発達したところである。山方町は昭和22年9月単独で町制をしき、さらに30年2月に諸富野村の一部、3月末に下小川村の一部、7月には塩田村の一部をそれぞれ編入して、面積82.5平方軒、人口14,011人(男6,877、女7,134、)世帯数2,577を有する模範的な町として再発足したのである。

(昭和30年10月1日国勢調査)この附近は山岳地帯への関門として昔から戦略的要地として重視され、後冷泉天皇の御代に行われた奥羽征伐の際に源頼義や義家が、当地でも相当激戦したといわれる。また佐竹藩や水戸藩になつてからもコンニャクや椋の栽培舟生金山の開墾を奨励し、この地方の特産として西野内紙やコンニャク粉は県内は勿論、遠く江戸、関西方面へも販路を拡張したそうである。なお西野内紙は正徳2年頃西野内の細貝翁が手漉の紙を作つたのが始りである。諸沢地区からは水戸藩の教学の基を開いた史館総裁会沢伯民、コンニャクの製粉を發明した中島藤右門が出ている。今では久慈の溪流に躍る多くの若あゆを目ざして遠近の大公望たちが沢山集つて来る由。ここは河北地方における代表的町村として、昨年からは新農村建設指定町となり、今や全町をあげて新しい郷土を築き上げるために全力を注いでいるのである。

### 2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数1,856戸、農家人口11,057名(男5,459、女5,598)、耕地面積1,030町(田384町畑682町、樹園地14町)、山林3,738町(農家所有2,488町公有、国有766町)を有し、河北地帯における典型的な山所といえる。畜産面を見ると、乳牛21頭、役牛348頭、馬323頭、めん羊200頭、山羊423頭、豚219頭、うさぎ1,268頭、にはとり7,091羽を飼養しており、特に山麓地帯を利用するめん羊、山羊の飼育に適している。(昭和31年2月冬期基本調査)次に林業面を見れば、山所だけに、木材の伐採数量は年産9,450石、薪20万7,000束、木炭48,400俵にのぼつており、県内は勿論京浜方面へも相当量の出荷がある。(昭和31年3月町役場調)かつては久慈川の流域を利用した桑園が沢山あつて、養蚕農家も多かったが、今では100戸前後で桑園15町、取繭高年間3,869貫に

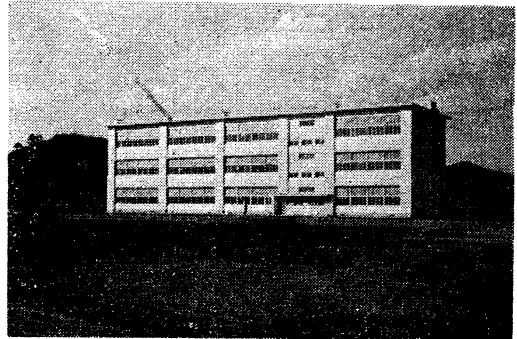
過ぎない。こんにやくも今では年産3,500貫位である。しかしたばこの栽培は盛んで面積134町にのぼりその品質も優秀である。

特に新農村建設計画の主な目標としては、まず耕地条件の整備(区画整理、用排水路の改修、暗渠排水)を実施して土地生産力の向上を計ることや、作物や乳牛、豚、めん羊などの優良品種を導入したり、病虫害の防除、適期播種、水田裏作の奨励、施肥の合理化、優良農機具の導入などによつて農業経営の改善を促進することにある由。次に道路の整備を計つたり共同施設の拡充、生活の改善合理化などをあげている。

また商工業面ではさしたる目ぼしいものは少く、食料品、洋品、雑貨小売店や製材所などが若干あるに過ぎない。ただ変つたものとしては、和紙製造業が5カ所あるのみである。

### 3. 教育文化

この町には小学校8、分校3、中学校3、共同管理2あつて、児童生徒数は小学生2,094名(男1,106、女988)、中学生835名(男445、女390)にのぼっている。中でもこの程新築された山方中学校舎は鉄筋コンクリート3階建407.6坪、役場庁舎は鉄筋コンクリート4階建144坪の近代的な建物で、県内は勿論、関東近県にも珍しいものといわれている。青年婦人団体や公民館運動として特別に変つたものはないが、町立の保育園は昭和29年に開設され、収容人員は70名、所員6名で優秀な実績を収めている由。またここでも町内への有線放送施設の開設を計画申といわれ、冠婚葬祭の簡素化とともに、生活文化面の向上が大いに期待される。



(新装なつた山方第一中学校舎)

### 4. 財政

昭和31年一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	公共企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	計						
	13,952,800	15,000,000	2,300,446,320	810,478	1,096,546	1,000	200,000	81,000	31,290,444							
歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	中学校建築費	計
	865,976	9,792,793	2,399,480	1,298,662	7,939,521	1,723,403	983,180	3,311,944	458,020	143,245	230,210	786,350	1,003,653	200,000	154,007	31,290,444

## 4月の農村物価賃金調査の概要

今月の農村物価は全般的に見て微落した。

農林生産物においては、前月に対して約2.8%微落し農家購入品の購入価格は、7.6%と下落を示した。

更に前年同月の物価水準と比べると、生産物は豆類、諸類、畜産物類が大巾に低落しているために約11.8%の低下を示している。購入価格においては、特に鶏畜類、農機具類の一部値下りによって約13%と下落が著しくなっている。

今月の農林生産物価の特徴的なものは、今まで急落してきた、ヤミ米価格が大体底をついて保合いとなり目立

つものとしては雑穀、諸類、畜産物類が全体的に値下りしたことである。上昇を示したものは、蔬菜類のだいこん29%、キャベツ18%等である。これは季節的に見て早出し物であり、しかも需要度が比較的に高いためと思われる。

農家購入品の購入価格は、目立つた動きはみられないが、家畜類及び農機具類の一部が前月に引続き下落した。値上りしたものは飼料類、資材類の一部が上昇を見たが他の品目については、あまり動きはない。

(1) 農家生産物の販売価格

調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば	調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば			
穀類	粳米	1升	107	円	100	農及農産加工品類	稲わら	1貫	13	3	130	
	糯米	〃	116	1	101		甘藷生切干	〃	—	—	—	
	大麦	〃	60	3	105		甘藷藁切干	〃	—	—	—	
	小麦	〃	46	△ 2	96		縄	〃	48	3	107	
	裸小麦	〃	61	7	113		叭	1枚	41	△ 8	84	
	小麦粉	1貫	188	4	102		苳	〃	65	△ 4	94	
雑穀類	とうもろこし	1升	41	△ 2	95	林産物類	薪	1束	38	1	103	
	あわ	〃	74	△ 4	95		木炭	4貫	412	1	100	
	ひえび	〃	—	—	—		蔬菜類	きうり	1貫	—	—	—
	もろこし	〃	62	11	122			しろり	〃	—	—	—
	そば粉	1貫	246	△ 12	95			かぼちや	〃	—	—	—
大豆	1升	77	△ 1	99	すいか	〃		—	—	—		
あづき	〃	129	16	114	すな	〃		—	—	—		
豆類	えんどう	〃	116	4	105	とまと	〃	—	—	—		
	そら豆	〃	58	—	—	だいこん	〃	31	7	129		
	いんげん豆	〃	102	7	107	かぶ	〃	—	—	—		
	落花生	〃	138	△ 3	98	にんじん	〃	68	△ 1	99		
胡麻	〃	129	△ 4	97	菜類	ごぼう	〃	62	△ 13	83		
なたね	〃	75	△ 5	94		さといも	〃	62	—	100		
諸類	甘馬鈴	1貫	32	△ 2		94	ねぎ	〃	56	△ 3	95	
	鈴薯	〃	42	△ 6		88	たまねぎ	〃	118	13	112	
蚕繭	〃	1,450	△ 150	91		キャベツ	〃	66	10	118		
畜産物類	肉牛	生体1貫	562	53	110	類	結球白菜	〃	—	—	—	
	肉豚	〃	525	△ 77	87		非結球白菜	〃	—	—	—	
	肉鶏	〃	534	△ 33	94		ほうれん草	〃	62	△ 12	84	
	牛乳	1升	49	3	107							
	鶏卵	1ヶ	9	△ 1	90							

(2) 農家購入品の購入価格

調査品目		単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば	調査品目		単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば	
肥料類	硫酸安	1貫	85	△ 2	98	農薬類	石硫黄合剤	18立 <sup>g</sup>	624	46	108	
	硝酸安	〃	114	△ 2	98		DDT	500	164	△ 12	93	
	石灰窒素	〃	85	△ 1	99		ウスブルン	〃	406	△ 17	96	
	過石	〃	54	△ 1	98		2-4-D	50g	120	△ 9	93	
	硫酸加里	〃	120	3	103		生石灰	4貫	320	△ 16	95	
	塩化加里	〃	90	△ 2	98		農具類	くわ	1丁	744	38	105
	菜種粕	〃	122	△ 3	98			かま	〃	122	1	101
	魚粕	〃	197	9	105			すき	1台	4,289	196	105
消石灰	〃	15	△ 2	88	噴霧機	〃		3,797	△ 45	99		
飼料類	ふすま	〃	95	3	103	水田除草機		〃	682	△ 113	86	
	米糠	〃	93	9	111	人力脱穀機		〃	5,279	△ 1,331	80	
	麦糠	〃	77	9	113	動力		〃	14,714	△ 3,221	82	
家畜類	役牛	1頭	37,820	△ 527	99	電動機	〃	16,431	△ 515	97		
	役馬	〃	29,045	△ 4,868	86	資材類	釘	100	29	1	104	
	仔豚	〃	2,714	△ 336	89		針金	〃	35	2	106	
	仔兔	1匹	63	△ 7	90		トタン	1枚	317	6	101	
	初生雛	1羽	81	△ 1	99		角材	1石	3,544	234	107	
石油	1升 <sup>g</sup>	44	△ 2	96	板		1坪	414	△ 28	94		
農薬類	硫酸銅	500	82	△ 1	99	農用被服類	紺木綿	1反	443	△ 14	97	
	硫酸ニコチン	〃	738	103	116	作業衣上下	1着	838	32	104		
	除虫菊粉末	〃	239	9	104	地下足袋	1足	271	4	101		
	砒酸鉛	〃	138	10	108	ゴム長靴	1足	633	20	103		

(3) 農村賃金及び農業用料金

農業労働賃金(臨時雇1日当)						山林労働賃金(男1日)		農業賃料々金				
賄なし	1食付	2食付	3食付	4食付	5食付	伐木	木材運輸	租	招賃	牛馬耕賃	牛賃借料	馬賃借料
男	円 346	円 302	円 264	円 236	円 —	円 368	円 434	女 1俵	米当	荒起整地	1日当	1日当
女	円 286	円 242	円 207	円 189	円 —	円 —	円 —	46	円 530	円 373	円 412	

〃いよいよ来る〃

## 〃サイバネティクス時代〃

—— ウィーナー教授の来日とその影響 ——

### 1. 時代の最先端をゆく思想サイバネティクス

ウィーナーのサイバネティクスか、サイバネティクスのウィーナーか、といわれるほどウィーナーとサイバネティクスとは、切つても切れない関係にあるが、そのウィーナーがNHKの招きにより去る4月に日本を訪れ、ラジオではもちろんのこと全国各地で講演を行い、サイバネティクスの時代が来ていることを強調した。

このことが学界にはもとより、あらゆる分野に与えた影響は極めて大きく、波紋はその範囲を次第に拡大しつつあるように見受けられる。そしてわれわれ統計家もまた、サイバネティクスによつて多くの重要な示唆を与えられている。

ノーバート・ウィーナー (Norbert Wiener) は、1894年にユダヤ系米人としてコロンビヤ市に生れ、3才ですでに文学の書を読み、14才でハーヴァート大学に入学、18才で数理論理学の研究によつてドクター・オブ・フィロソフィーの学位を得た。彼はその自伝においてみづから幼小のころ神童といわれたこと、2才の頃のことまで記憶していることを述べているが、それほどの彼は天才児であつたようだ。

大学を出るとさらにイギリスのケンブリッジ、ドイツのゲンチンゲンの大学で数理哲学を学び、帰国してエンサイクロペディア、アメリカナの編集員となり、第1次世界大戦中には従軍して高射砲の弾道計算の仕事にたずさわつた。次いでボストンヘラルド紙の社会部、政治部の記者、ボストン市の臨時警察官等を遍歴して、マサチューセッツ工科大学の講師に就任、30年以上教職にあつて、今日なお同大学の教授である。その間、教学、哲学、心理学、生理学等、すこぶる広範囲にわたる研究を行つたが、特に確率論を中心とした通理論の統計的研究について独自の分野を拓いた。これがサイバネティクスで1949年にジョン・ワイリー書店から出版した「サイバネティクス」—CYBERNETICS—は、不世出の天才児ウィーナーが、その生涯を賭けて行つた研究を要約したものである。

「サイバネティクス」には「人間もしくは動物と、機械との間の制御と通信という副題がついているが、サイバネティクスは機械と動物または人間との共通性を追求したところの科学であり、同時にまた、近代科学の立場からする機械文明への鋭い批判でもある。そしてその根底を貫くものは、近代的なそして熾烈なるウィーナー

の自由主義思想である。

しかし、ウィーナーのサイバネティクスについて、数学、哲学、心理学、生理学等、それぞれの専門家が、それぞれの専門的分野に関係ある部分のみを読むならば、決して難解なものではないが、多数の専門的な部門の専門的事項や術語がめまぐるしいばかりに出てくるので、読む者はまずこの本の第1章の総論を見ただけでため息をつかずにはいられないであろう。しかしこの第1章こそまさに圧巻というべきもので、ウィーナーの面目真に躍如たるものがあるとともに、エンサイクロペディア・アメリカナの編集員もやつたというウィーナーの識見の豊かさと、その学問の幅の広さを物語っている。たとえば第1章に登場する人名だけを拾つてみても、ベルグソン、ライプニッツ、ニュートン、巨人ゴレム、フアラデー、ガウス、ダーヴィン、ロード・ケルビン、コペルニクス、ケツプラー、ガリレオ等と、それに人間ならぬ神様まで登場するといった具合である。

筆者が「サイバネティクス」を読んで深い感銘に打たれ、そのあらましを統計情報、教育統計、日産協月報その他に紹介してから早くも3年以上経っているが、当時推測統計学で著名な九州大学の比川敏男教授は、ある雑誌で「今後の統計学の新しい方向が2つある。その1つはオペレーションズ・リサーチ、もう一つはサイバネティクスである」と述べて統計家の注意を喚起していた。

### 2. サイバネティクスは船の舵手・文明の舵手

そもそもサイバネティクスとは、ギリシヤ語で船の舵手を意味する言葉であるが、ウィーナーが確率論を中心とした通信理論の研究をした際、彼の研究の重要部分を占める自動制御について、その原理を最初に提唱したイギリスの物理学者クラーク・マックスウエル卿が、電気理論におけるフィード・バックを説明するのに、サイバネティクスの言葉を使用したことになぞらえて、彼の新しい科学にこの名を冠したものである。

すなわち船の舵手は、たえず船の進路を見ながら、時刻々と操舵して船を安全に導くのであるが、ウィーナーはフィードバックの理論を媒体として、人間の生理的機能と機械の機能との類似性を研究して人間と機械とを結合するような科学を体系づけようとした。

電気理論におけるフィードバックとは、ラジオ、電蓄、テレビまたは拡声装置等の低周波の増幅回路などで出力側の電流の一部を入力側の側に戻す場合をいい、これ

をフィードバックの回路などと呼んでいる。この場合には、出力の側の電流の一部を入力側に戻すことによつて出力の大きさを機械自身がしらべて、自動的にその後の出力を制御している。これはいわゆる弱電の例であるが、強電に例をとると、登山電車が山を下るときに、電車の重力でモーターを逆転させてブレーキにかえると、モーターは発電して山に登る電車に電力を供給するはたらきをする。このような場合もフィードバックするという。

すなわち船の舵手を意味するサイバネティクスの言葉で表現している人間の一手一投足の行動が、すべて人間が行いつつある行動の結果のフィードバックにもとづいてなされるものであるという考え方が、ウィナーのサイバネティクスの思想の基礎をなすものであるといえる。

このような思想にもとづいて、人々はフィードバックをいろいろな表現をもつて定義している。ある人は、自分の行動の結果の良し悪しによつて、未来の行動を修正することをフィードバックと言い、またある人は、しようとした行動ではなく、外界に対して実際に行つた行動が、中央の調整装置に復命されることをフィードバックという。またこれを機械に当てはめて、ある係が行つた仕事の結果をその係に再挿入することによつてなされる係の制御をフィードバックといい、あるいはまた機械をその予定の行動によつてではなく、外界に対して実際に行つた行動にもとづいて制御することをフィードバックという、と定義している。

### 3. おのずから限界のある生体内のフィードバック

人間は感覚器官によつて外界から情報を蒐集する。見る、聴く、嗅ぐ、なめる、さわる等いずれも感覚器官の働きによるもので、得た情報は電気の回路に似た神経系統によつて、末端の神経から次第に脊髄中枢を経て大脳に伝達される。情報を得た大脳からは、外界の状況に対応するために必要な命令が発せられるが、その命令は脊髄中枢を経て末端の神経に伝達されて、初めて行動がとられるのである。

これが生体内のフィードバックであるが、この生体内のフィードバックは連続的に行われる。たとえば人が机の上の本を持上げようとする場合、その人は腕のどの筋肉を動かすかということは考えもしないし、ほとんど知りもしないのであるが、フィードバックを働かせることによつて、最初に出した力によつてその本が持ち上らないときには、あらたな追加命令が次々と反射的に発せられて目的を達せさせるのである。

しかるに生体内におけるフィードバックの回路である神経系統の一部をなすところの神経細胞の一個一個のフィードバック作用は連続的ではなく断続的に行われる。神経は神経細胞と突起とよばれる神経繊維と、その先端

にあるシナプスと称する部分から構成されていて、シナプスが隣の神経細胞に接触することによつて、初めて一つの系路が通じるのである。この系路は生れながらに通じているものと、訓練や経験によつて通じるものがある。またシナプスから隣りの神経細胞への情報の受渡しは、電流の場合の衝撃波のような形で送らると言われるが、すべての情報が受渡されるのではなく、受渡されないものもあり、また中には途中で止まつて反射的に逆の方向に命令が発せられることもあるという。

このような感覚器官から大脳にまで通ずるフィードバックの回路によつて人間の生体の機能は常に自動的に制御されている。

ところが、人間の生理的機能には限界がある。たとえば視覚だけについて見ても目に映つた映像は $\frac{1}{16}$ 秒間は残像として残る。そこで毎秒16コマ以上の速度で写真フィルムを映写すると、人間の眼には連続として見えるので映画なるものが生れているのである。さらにまた人間の眼に物が映つてから、すなわち視覚が情報を受けてから、それに対応する行動をとるまでには、さらに長い時間を必要とする。子供が突然に走っている自動車の前に飛び出して来たと仮定する。運転手はブレーキを踏む。そのときフィードバックの敏速な運転手なら0.4秒でブレーキペダルを踏むがフィードバックののろい運転手だと0.8秒はかかる。もしも自動車のスピードが60軒であつたとすれば、0.4秒の差は7米の距離の差に当るから事は重大である。自動車でさえこれであるから、飛行機ともなればいよいよフィードバックに要する時間ということの制約は大きい。

あらゆることが驚くべき速度をもつて進みつつある今日においては、人間の神経系統の働きによるフィードバックだけではすでにわれわれの安全は保障されないのである。

### 4. 人間を補佐する機械によるフィードバック

20世期の文明社会においては、われわれはしばしばわれわれの生理的機能の限界をこえた速さのフィードバックによつて、行動をとらなければならなくなつた。この目的のためにあらたな使命を帯びて登場したのが、人間の感覚器官に代つて感覚器官のような働きをする機械と人間の脳細胞に代つて計算を行うような機械である。すなわち視覚に代る感覚器官としては光電管、テレビの受像管としてレーダー等があり、聴覚に代るものとしては各種のマイクロホンがあり、その他の感覚器官に代るものとしてはたとえば温度の変化で情報を伝えるバイメタルや金属ペロー等あまたあるであろう。また人間の脳細胞に代つて計算を行う機械としては、計算をする部分に継電器、トランジスター、真空管、または数年前に日本人が発明したパラメトロン等を使用し、記憶する部分

には継電器、トランジスター、真空管、パラメトロン、水銀タンク、電磁ドラム、電磁テープ、電磁コア等を使用する電気計算機があり、このうち近似値を求めるのに使用するのがアナログ計算機、計数値を求めるのに使用するのが計数型継電式計算機、計数型電子計算機である。そして電子計算機の大型のものはこれを人工頭脳とよんでいる。

機械による情報のフィードバックが人間を補佐するために実際に使用されたのは、第2次世界大戦中のことであつた。英本土に進入するドイツの航空機が、ジクザク島コースをとりながらポーカーの名人のようにロンドン上空に侵入するようになったとき、敵機を捕捉してから高射砲を発射するまでに要する時間を短縮するために、抜本的な対策をたてることの必要に迫られた。このときマサチューセッツ工科大学にいたウィーナー教授が、同じ大学のサミュエル・カードウェル教授の協力のもとに、レーダーとヴァンネー・ブツシユ博士の作った微分解析機を使用し、これに高射砲を連動させる方法を完成して問題を解決したのであつた。

この研究を一つの契機として機械の感覚器官と、電気的な機械が頭脳を使用する研究が急速に進められることになつたのである。

人口頭脳は無数のゲート回路からなつている。それはあたかも人間の脳細胞の機能によく似ており、脳細胞の中の回路を循環している信号のパルズの中から必要なものだけをとり出しているのと同様に、人工頭脳は水銀タンク、磁気ドラム、磁気コア、真空管等のゲートの中から必要なパルズだけをひき出して計算をするのである。もしも脳が計算機と同じようなものなら、電子計算機で人間の考えることなら何でもやれるだろうか。この問題について人間の脳細胞の数に近い千万個くらいの数の真空管を使用するならば、人間に代つて創造的な思考もできるであろうと言つているものもある。

しかし現在はまだそのような段階には入っていない。感覚器官をもつ機械は、人間が機械に与えた命令にしたがつて計算を行い、命令にしたがつて判断をも行うだけである。そして人間が機械に与え命令の中には計算を行う数学的な手順まで含んでいる。最近大流行のオートメーションもまた、この範囲内において進歩発達を遂げつつあるものであると言える。

## 5. 統計もまた情報のフィードバック

サイバネティクスの思想の中には、多くの統計的問題を含んでいる。確率理論を中心とする情報理論、キューイングの理論、ゲームの理論、インベンリトリーの理論、搜索理論等々があり、また人工頭脳との他の計算機械の問題もある。しかしわれわれ統計マンに対してサイバネティクスが示唆している最大の問題は、われわれの

日々行つている仕事の結果として作られる統計が情報のフィードバックそのものであり、サイバネティクスの観点から統計調査の方法、集計の方法、公表の方法等を研究して、20世期の文明社会の進歩発達におくれをとらない統計を作成しなければならないということではないだろうか。

統計は、政治、行政、経営、あるいはわれわれの属している社会自体の行動結果に関する情報の大量的なフィードバックである。このフィードバックによつてえられた情報である各種の統計を使つて政治家も、行政官も、経営者も、また社会全体が時々刻々と今後の行動に必要な修正を加えてゆかなければならない。すなわち、今後の行動に時々刻々必要な修正を加えるために役に立つ統計でないならば、20世期の文明社会においては、利用価値がほとんどないといつても過言ではない。統計は過去の政治、行政、経営等の正確な記述であるだけで満足した時代は過ぎ去つた。統計は社会の進歩発達の前であつてはならないのである。時々刻々と変つてゆく社会の中において政治や、行政や、企業の経営や、そしてわれわれの行動を安全に導くための舵をとるのに使える羅針盤として役に立つものでなければならぬ。そのためには統計に対する精度の要にも求増して、速度の要求が強くなつているのである。

## 6. 思想の原爆であるサイバネティクス

すでに20年前に国外においてはイギリスのハクスレーが科学と哲学の問題を論じ、国内においては三枝博音、田辺元等の人々によつてこの問題が論議されていた。しかしそれらの議論はいずれも抽象的な観念論の範囲を出るものではなかつた。しかるにウィーナーのサイバネティクスは、生々しい現実の問題と真正面から取り組んで20世期の文明社会に生きるわれわれの、脱れようにも脱れられない問題をはげしく示唆しているので、重々しく実感を伴いながらわれわれにこれでもかこれでもかと言わんばかりの執拗さをもつて迫ってくるものを感じるのである。

サイバネティクスは、肉眼には見えない科学的な思想の原爆である。しかし、ウィーナーのサイバネティクスを何回も繰り返して読んでいうちに、いつともなく激しい生存競争にうち克つて生き残り、小さな地球の中における土地と時代の制約による自然淘汰を免れるための、神眼のような洞察力がひらかれるように思えてきたのは、筆者ひとりだけではないだろう。

20世期の怪物ウィーナー彼の思想が三千世界を却火に包んで滅亡に導くサタンとなることなく、地上に恵みあまねき福音をもたらすメシヤとなることを衷心から念願してやまない。

(筆者は行政管理庁統計基準部企画課長  
後藤正夫)

## 水戸市における家計費の推移

最近における一般の消費生活は非常に盛んとなり、エンゲル係数も次第に低下して私たちの生活はやや安定してきたといえる。さきに総理府統計局から公表された『戦後10年の家計』を見ても分るようにエンゲル係数は全都市平均で昭和26年に51.7%、27年に48.3%、28年45%、29年45.5%、30年44.5%と年を追って低くなっている。その反面、住居費や医療費、理容費、教育費、交際費、教養文化費などが増加している。この傾向は私たち

の生活内容を見ても明かである。そのために家計費全体としてはかえって苦しくなつて来たようでもある。

水戸市においても昭和29年11月のエンゲル係数が約40.6%だったものが30年11月には40%に下つてきたのである。これは消費性向の高進とは別にしても相当の文化的水準に達したことを示している。

次に水戸市における臨時家計調査（6月、11月分）の結果を見ることにする。

水戸市における勤労者世帯1ヶ月間の収入と支出

（茨城県調査企画課調）

取 入	金 額(円)		支 出	金 額(円)	
	30年 6月	30年 11月		30年 6月	30年 11月
世帯人員数	4.60人	4.23人	世帯人員数	4.60人	4.23人
収入総額	44,282	34,829	支出総額	44,282	34,829
実収入総額	34,269	21,692	実支出総額	26,907	22,462
勤め先からの収入	32,630	18,154	消費支出総額	22,211	20,599
世帯主収入	29,157	16,903	飲食費	9,920	8,273
本業	—	16,838	穀類	3,653	2,851
定期	20,407	16,550	その他の飲食費	3,267	5,422
臨時	8,750	288	住居費	1,316	1,248
副業	—	65	先立費	998	1,088
妻の収入	3,473	533	被服費	2,892	3,608
その他の世帯員収入	—	718	その他の諸費	7,088	6,382
事業、内職収入	334	219	非消費支出総額	4,696	1,863
世帯主収入	—	35	勤労所得税	2,898	873
その他の世帯員収入	—	184	その他の税	602	356
その他の実収入	1,305	3,319	社会保障費	893	546
実収入以外の収入	3,258	6,196	その他非消費支出	—	88
前月からの繰越金	6,754	6,941	実支出以外の支出	9,009	7,388
現物総額	914	1,541	翌月への繰越金	8,361	4,979
			現物総額	914	1,541

# 生産動態統計調査

昭和31年6月度分

## 織 維 部 門

(調査企画課商工調査係)

本表は、生産動態統計調査規則に定められている織維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸和紡糸以外の紡績工場、および抽出調査工場は含まれていない。

(1) 対象工場数

業 種	特紡和紡糸	綿織物	絹織物	メリヤス製品	雑織維製品	縫製品	製綿
対 象	7	17	317	10	4	18	8
操 業	7	17	317	10	3	13	8
休 止	—	—	—	—	1	5	—

(2) 生産及び出荷状況

部門別	品 目 別	単 位	生 産 高		引 渡 高		月 度 末 在 庫 高	
			当 月 度	前 月 100 対 比	当 月 度	前 月 100 対 比	当 月 度	前 月 100 対 比
紡績	計	封 度	62,834	95	71,803	111	6,131	41
	落綿糸	〃	46,900	93	56,400	123	450	11
	特紡糸	〃	5,400	100	5,400	100	125	100
	和紡糸	〃	10,534	104	10,003	105	5,556	110
	織物計	平方碼	367,292	104	366,068	104	107,068	98
	綿織物	〃	201,276	109	195,267	100	65,791	110
	絹織物	〃	65,403	97	69,533	106	15,948	79
	絹紡織物	〃	7,686	82	8,005	86	4,226	93
	和紡織物	〃	87,463	109	86,575	109	20,986	89
	特紡織物	〃	—	—	—	—	—	—
物	スフ織物	〃	—	—	—	—	—	—
	入絹織物	〃	—	—	—	—	—	—
	合成織維織物	〃	5,464	45	6,688	52	117	87
	メリヤス生地	封 度	4,077	47	4,447	—	2,265	86
	製品計	打	10,024	100	17,109	114	17,937	186
	肌着	〃	2,500	120	2,000	100	1,235	168
	外衣	〃	130	185	130	185	—	—
	手袋	〃	6,095	94	13,188	123	15,180	221
	靴下	〃	1,299	94	1,791	84	1,522	76
	計	封 度	2,213	84	2,815	53	2,413	88
雑織維製品	漁具	網	1,623	104	1,747	53	1,356	94
	漁具	糸	590	57	1,068	53	1,057	81
	学業	着	806	68	787	64	1,160	102
	製作	服	1,618	67	1,651	134	142	81
	製	服	4,056	225	4,056	225	—	—
品	乳児および子供服	〃	694	156	538	121	614	134
	既成服	〃	272	47	280	47	518	98
	中肌衣	点	39,783	101	34,876	67	18,809	135
	肌衣	〃	3,905	107	3,237	132	2,894	130
綿	綿	封 度	108,364	104	98,971	109	65,359	126



昭和31年6月度分

機械鑄物部門

索引 番号	製品名 用途別	生 産		出 荷		自己消費	月末在庫
		重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	重 量(kg)
47	銑鉄鑄物	165,569	10,340	152,115	9,251	20,375	16,510
47-01	産業機械器具用	113,814	6,971	105,426	6,295	10,109	5,220
47-02	繊維機械器具用	—	—	—	—	—	—
47-03	鉄道及び車輛用	7,666	467	7,666	467	—	—
47-04	電気及び通信機器用	22,951	1,597	22,951	1,597	—	—
47-05	農水産機器用	—	—	—	—	—	—
47-06	港湾及び船舶機器用	—	—	—	—	—	—
47-07	雑機械器具用	5,045	349	2,345	147	2,700	—
47-08	日用品	9,116	616	9,550	517	2,006	11,290
47-09	鑄型及び鑄型定盤	2,800	112	—	—	5,560	—
47-10	その他	—	—	—	—	—	—
47-11	その他	4,177	228	4,177	228	—	—

製品名	工場数		月間生産高	月間出荷高	月末在庫高	資材名	消費(kg)	月末在庫(kg)
	対象	操業	前月100対比	前月100対比	前月100対比			
銑鉄鑄物	11	11	106	108	71	銑鉄 故銑 鋼屑	47,919 118,876 22,017	32,992 18,355 1,528

索引 番号	用途 製品名 別	生 産		青 銅 鑄 物		黄 銅 鑄 物	
		銅 鑄 物		青 銅 鑄 物		黄 銅 鑄 物	
		重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	金額(千円)
49	銅合金鑄物	—	—	18,295	10,145	5,730	2,471
49-01	産業機械器具用	—	—	1,493	698	117	59
49-02	電気及び通信機器用	—	—	9,052	5,220	—	—
49-03	鉄道及び車輛用	—	—	483	270	—	—
49-04	港湾及び船舶機器用	—	—	1,192	814	2,054	1,064
49-05	軸受メタ	—	—	2,409	1,145	—	—
49-06	管継手	—	—	—	—	—	—
49-07	バルブコック	—	—	3,092	1,677	3,559	1,348
49-08	建築用品	—	—	250	170	—	—
49-09	日用品	—	—	—	—	—	—
49-10	その他	—	—	324	151	—	—

製品名	工場数		月 間 生 産 高		
	対象	操業	重 量 (kg)	前月 100対比	金 額(千円)
銅合金鑄物	7	7	24,025	106	12,616

※ 本表の工場数は下記の定義に基いたものである。

1. 銑鉄鑄物については従業員10人以上100人未満の工場を対象とした。
2. 銅合金鑄物については従業員5人以上100人未満の工場を対象とした。
3. 上記以外の製品については、従業員20人以上100人未満の工場を対象とした。

対象工場数生産数量及び出荷数量において、2以下の事業所については公表を禁じられているので\*をもつて示した。  
玩具、革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、金属洋食器、赤煉瓦は全事業所。

業 種	玩 具	革 靴	漆 器	金属洋食器	陶 磁 器	赤 煉 瓦
対 象	3	5	12	1	26	4
操 業	2	5	6	1	26	3
休 止	1	—	6	—	—	1

生産及び出荷状況（前月対比は前月を100とする）

業 種	区 分 製品名	単 位	生 産 数 量		出 荷 数 量						月 末 在 庫 数 量	
			数 量	前 月 対 比	金 額 (円)	国 内		輸 出		金 額 (円)		
						数 量	前 月 対 比	数 量	前 月 対 比			
玩 具	金属製玩具	個	19,164	98	397,044	1,500	19	37,500	17,664	148	359,544	—
	プラスチック製玩具	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	セルロイド製玩具	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
革 靴	男子総革製靴	足	769	98	—	768	94	1,319,000	—	—	—	508
	婦人総革製靴	〃	94	79	—	97	73	222,000	—	—	—	168
	一部に革以外のものを使用したもの	〃	11	65	—	19	95	23,000	—	—	—	10
	サンダル	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漆器(木製)	容器類	個	358	48	74,460	566	75	72,560	—	—	—	45
	食卓子膳、盆類	〃	1,015	92	455,920	1,015	114	445,120	—	—	—	70
	その他	〃	20	118	10,000	20	34	10,000	—	—	—	2
金属洋食器	スプーン	組	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	フォーク	〃	x	—	x	x	—	x	—	—	—	—
	ナイフ	〃	x	—	x	x	—	x	—	—	—	—
陶 磁 器	電気用品	瓦	31,666	95	—	31,666	95	8,870,000	—	—	—	—
	特別高圧碍子	〃	2,584	124	—	2,584	124	2,728,000	—	—	—	—
	高圧用碍子	〃	2,508	101	—	2,508	101	2,744,000	—	—	—	—
	低圧用碍子	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	厨房用品(その他)	〃	131,907	84	—	166,512	110	1,620,106	—	—	—	109,245
衛生用品(その他)	〃	42,000	95	—	40,000	94	420,000	—	—	—	5,400	
その他(その他)	〃	7,928	57	—	7,928	5	128,440	—	—	—	904	
赤 煉 瓦	屯	308	121	—	308	121	900,000	—	—	—	—	

〔備考〕 前月末在庫過欠補正（うち厨房用品815瓦減）（その他328瓦減）



## (統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)

〔**十大紡**〕 大日本紡績、東洋紡、敷島紡、大和紡、倉敷紡、鐘ヶ淵、富士紡、日清紡、日東紡、呉羽紡をいう。

〔**第1次、第2次、第3次産業**〕 第1次産業とは農林業と水産業、第2次産業は鉱業、建設業、製造業、ガス電気業、第3次産業は商業、金融業、交通業、サービ

ス業、公務などをいう。

〔**含み資産**〕 帳簿上に記載されている資産価格が実際の価格より低い場合にその差額をいうが、内容的にはいろいろあつて、個々の資産勘定における含み資産もあれば、全資産勘定ないし経理全般からの含み資産もある。

### 編 集 室

●うつとうしい梅雨もカラリと明けて、いよいよ暑さ厳しい盛夏の候となり、私たちは生き返つたような快感を味つているが、あまりにも強い陽ざしに戸惑うほどである。今年は低温多湿といわれたとおり、梅雨時の気温は非常に低く、私たちは上衣やセーターを引出す仕末であつた。今後はドンドン気温が上つてもらいたいものである。表紙の写真は山水美の極致を味い都会の憂うつを忘れられる花貫溪谷であります。

●最近における日銀の通貨発行高は 5,960億を上回っているそうであるが、これはやはり私たちの消費性向の高進のためである由。さきに統計局公表された「戦後10年の家計」によれば、年を追つて家計は楽になつておりエンゲル系数（飲食費の占める割合）は相当低下してきた。たとえば全都市平均で昭和26年に51.7%で

あつたものが、30年には44.5%に下つている。これらの現象を見ても、私たちの生活は相当楽なことになっているが、実際にはそうでもないからチョット変だ。夏場を控えこの好ましくない傾向がますます強くなるとよいがと非常に気懸りだ。

### 回統計だより

☆6月20、21日 関東甲信静ブロック統計主管課長会議が行政管理庁会議室で開かれ、本県から平野課長および山中課長補佐が出席した。

☆6月22、23日 関東甲信、都市統計協議会が大洗町で開かれ、県から木村総務部長および山中課長補佐が出席した。

☆7月3、4日 関東甲信越ブロック昭和30年国富調査事務打谷会が山梨県で開かれ、大録係長、小野瀬、浅野両主事が出席した。

